

November 16, 2021

【前日の為替概況】米 10 年債利回り 1.63%でドル上昇、対円 114.21 円、対ユーロ 1.1356 ドル

15 日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは 4 日続落。終値は 1.1368 ドルと前営業日 NY 終値 (1.1445 ドル) と比べて 0.0077 ドル程度のユーロ安水準。11 月米ニューヨーク連銀製造業景気指数が 30.9 と予想の 22.0 を上回り、米 10 年債利回りが 1.6300%前後まで上昇すると、ユーロ売り・ドル買いが活発化し、1.1356 ドルと昨年 7 月以来の安値を更新した。市場関係者からは「欧州では新型コロナウイルス感染が再拡大しており、ユーロの重しとなっている」との声も聞かれた。ユーロ豪ドルは一時 1.5464 豪ドル、ユーロ NZ ドルは 1.6131 NZ ドル、ユーロポンドは 0.8471 ポンド、ユーロカナダドルは 1.4217 カナダドル、ユーロスイスフランは 1.0511 スイスフランまで下落した。オーストリアではコロナワクチン未接種者を対象に外出制限などを課すロックダウン（都市封鎖）措置が始まったほか、アイルランドでは在宅勤務を再度奨励する見通しとなった。また、ドイツでは次期連立政権の樹立に向け交渉中の 3 党がより厳しい制限措置の再導入を排除しない意向を示した。

ドル円は反発。終値は 114.12 円と前営業日 NY 終値 (113.89 円) と比べて 23 銭程度のドル高水準だった。米経済指標が予想を上回り、米長期金利が上昇したことで円売り・ドル買いが優勢となり 114.21 円まで上値を伸ばした。ドルインデックスは一時 95.60 と昨年 7 月以来の高値を付けた。

ユーロ円は 5 日続落。終値は 129.74 円と前営業日 NY 終値 (130.33 円) と比べて 59 銭程度のユーロ安水準。欧州で新型コロナ対策の行動規制が広がる中、ユーロ全面安となった流れに沿った。米国株相場がマイナス圏に沈んだことも相場の重しとなり 129.68 円と 10 月 11 日以来約 1 カ月ぶりの安値を更新した。

【本日の東京為替見通し】ドル円は米 10 年債利回り 1.6%台で底堅い展開、米中首脳会談に注目

本日の東京外国為替市場のドル円は、米 10 年債利回りが 1.6%台で推移していることで底堅い展開が予想される中、バイデン米大統領と習中国国家主席のオンライン会談を見極める展開となる。

本日午前 9 時 45 分 (米国東部時間午後 7 時 45 分) からバイデン米大統領と習中国国家主席がオンライン会談を行う。主要議題で打開に至る可能性は低いものの、制裁措置や台湾を巡る緊張など多岐にわたる問題が取り上げられる模様で要注目となる。

マイナスの材料 (リスク回避要因) としては以下の通り。

- ・米連邦議会の議員団が軍用機で台湾を訪問し、中国国防省は、中国の内政に干渉したとして米議員団訪問を強く非難している。
- ・米務省は、中国が 2030 年までに少なくとも 1000 発の核弾頭の保有を目指している可能性があるとする報告書を公表した。
- ・ブリンケン米務長官は王毅中国外相との電話会談で、台湾海峡の平和と安定はアメリカにとって長期的な利益だと強調し、中国政府による台湾当局への圧力に懸念を示した。
- ・中国の軍用機 39 機が台湾の防空識別圏 (ADIZ) に進入して武力示威を展開した。
- ・米議会は中国・新疆ウイグル自治区などでの人権侵害に抗議し、北京五輪の開会式や関連行事への高官派遣を拒否する「外交ボイコット」を求める声が強まっている。
- ・米商務省は中国による鉄鋼などの生産を過剰とし、米経済に与える影響を問題視している。
- ・米国と台湾が今週、政治・軍事対話開催、との報道。
- ・中国は、台湾問題について米国は一步引いて、自制を示すべきだとの立場を示す見通し。

プラスの材料 (リスク選好要因) としては以下の通り。

- ・習中国国家主席は、バイデン米大統領を来年の北京冬季五輪に合わせ北京で開催される行事に招待する見通し、との報道。
- ・バイデン米政権は、トランプ前政権が課した対中制裁関税を解除する可能性、との報道。

9 時 30 分に公表される 11 月の豪準備銀行 (RBA) 理事会要旨では、3 年国債の利回り目標によるイールドカーブ・コントロール (YCC) を停止したものの、利上げ開始を 2024 年とした背景を見極めることになる。ロウ豪準備銀行 (RBA) 総裁は、「最初の利上げは 24 年 4 月より前に行われそうにないが、同時に 23 年の利上げが適切とも思われる。タイミングは『実に不透明』だ」と述べており、本日の講演にも要注目となる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○13:30 ◇ 9月第三次産業活動指数（予想：前月比 0.8%）

<海外>

○09:30 ◎ 11月豪準備銀行（RBA）理事会議事要旨

○11:30 ◎ ロウ RBA 総裁、講演

○16:00 ◎ 10月英雇用統計（失業率／失業保険申請件数推移）

○16:00 ◎ 7-9月英失業率（ILO方式、予想：4.4%）

○16:45 ◇ 10月仏消費者物価指数（CPI）改定値（予想：前月比 0.4%／前年比 2.6%）

○19:00 ☆ 7-9月期ユーロ圏域内総生産（GDP）改定値（予想：前期比 2.2%／前年比 3.7%）

○22:15 ◇ 10月カナダ住宅着工件数（予想：25.50万件）

○22:30 ☆ 10月米小売売上高（予想：前月比 1.2%／自動車を除く前月比 1.0%）

○22:30 ◇ 10月米輸入物価指数（予想：前月比 1.0%）

○23:15 ◎ 10月米鉱工業生産（予想：前月比 0.7%）

◇ 設備稼働率（予想：75.8%）

○24:00 ◎ 11月全米ホームビルダー協会（NAHB）住宅市場指数（予想：80）

○24:00 ◇ 9月米企業在庫（予想：前月比 0.6%）

○17日 01:10 ◎ ラガルド欧州中央銀行（ECB）総裁、講演

○17日 02:00 ◎ バーキン米リッチモンド連銀総裁、ボスティック米アトランタ連銀総裁、ジョージ米カンザスシティ連銀総裁、パネルディスカッションに参加

○17日 05:30 ◎ デイリー米サンフランシスコ連銀総裁、講演

○17日 06:00 ◎ 9月対米証券投資動向

○米中首脳会談（オンライン形式）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

15日 10:10 黒田日銀総裁

「物価目標実現に向け、強力緩和を粘り強く続ける」
「日本の物価上昇率は徐々に高まっていくとは言え、2%物価安定目標には達しない」
「先行きの景気回復のメカニズムは崩れていない」
「物価上昇率1%でも金融緩和措置を緩めることは全く考えていない」
「適切なイールドカーブが維持されている」

15日 17:03 マース独外相

「ベラルーシについて、EUは『制裁のスパイラル』の終わりにはほど遠い」

15日 17:18 ポレル欧州連合(EU)外務・安全保障政策上級代表

「EUの大臣たちは新たなベラルーシへの制裁を本日承認する」
「軍事的行動まで悪化するとは思っていない」

15日 19:11 ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁

「現在のインフレ率の急上昇にもかかわらず、中期的なインフレ率の見通しは依然として抑制されている」
「来年の賃金上昇は今年よりもやや高くなる可能性があるものの、二次的効果のリスクは限定的」
「資金調達条件の過度の引き締めは望ましくなく、回復のための不当な逆風になる」
「来年のインフレ率はまだ緩やかになると見ているが、低下には当初の予想よりも時間がかかるだろう」
「今引き締め策をとることは利益よりも害が大きい」
「2023年の金利についてはあえてコメントしない」

15日 23:14 マックレム・カナダ銀行(中央銀行、BOC)総裁

「経済のスラック(需給の緩み)の吸収はまだだが、近づいている」
「金融刺激策は依然として必要」
「量的緩和(QE)を介した追加の刺激策はもう必要ない」

15日 23:36 ベイリー英中銀(BOE)総裁

「インフレの状況について非常に不安に思う」
「成長は横ばいになり始めた」
「すべての会合で利上げの可能性がある」
「経済の不確実性が非常に高いことを考慮すると、具体的なフォワードガイダンスを提供することは危険」

15日 23:50 デコス・スペイン中銀総裁

「中期インフレは2023年の目標を下回ったまま」

16日 00:10 サンダース英中銀金融政策委員会(MPC)委員

「賃金スパイラルのリスクはない」
「インフレ率が一般的に上昇する可能性は、現在の利上げを正当化するのに十分なほど高い」

16日 01:08 デギンドス欧州中央銀行(ECB)副総裁

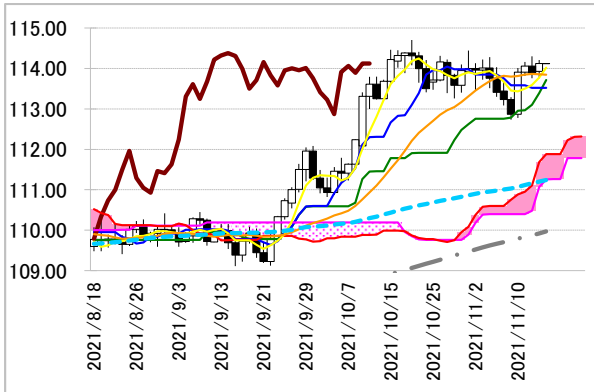
「エネルギーコストの上昇が成長を圧迫」
「供給不足は価格を押し上げながら活動を弱める可能性。成長とインフレ見通しの不確実性が増す」
「インフレ率の上昇は予想よりも長く続く可能性」
「インフレ期待は抑制されていない」

16日 06:49 バーキン米リッチモンド連銀総裁

「FRBは忍耐強いがインフレに関しては行動をためらうことはない」
「サプライチェーンの問題は来年にかけて続く予想」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

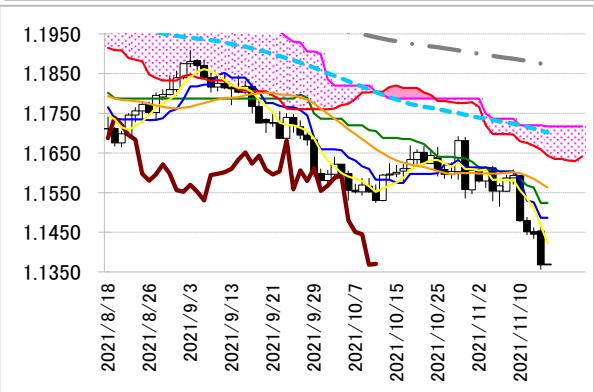


<ドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。転換線を上回って引けていることで続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	115.51 (2017/3/10 高値)
レジスタンス 1	114.70 (10/20 高値＝年初来高値)
前日終値	114.12
サポート 1	113.52 (日足一目均衡表・転換線)
サポート 2	113.26 (10/28 安値)

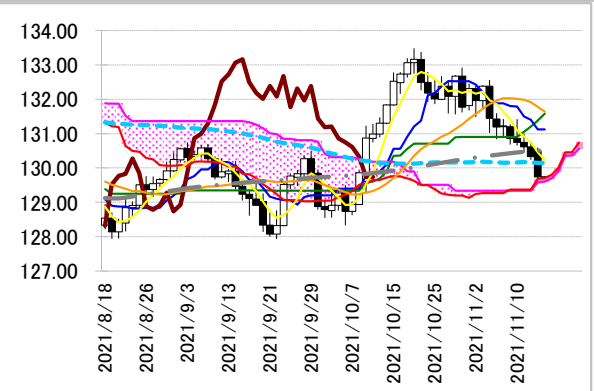


<ユーロドル＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。4手連続陰線で下落し、転換線を下回って引けており続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1487 (日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1368
サポート 1	1.1325 (2020/7/14 安値)

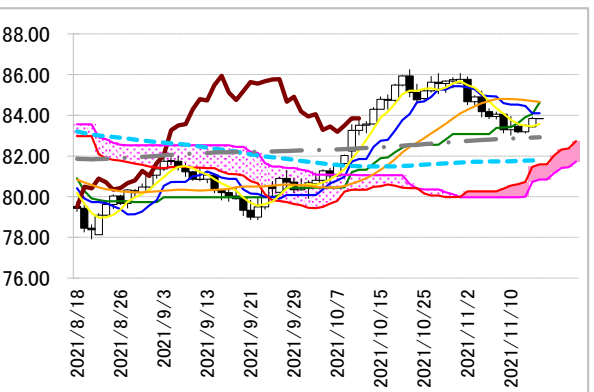


<ユーロ円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の上で引けているものの、売りシグナルが優勢な展開。8手連続陰線で下落し、転換線を下回って引けていることで続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	131.12 (日足一目均衡表・転換線)
前日終値	129.74
サポート 1	128.33 (10/6 安値)



<豪ドル円＝基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回っているものの、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。しかしながら、2手連続陽線で反発しているものの、転換線を下回って引けていることで反落の可能性が示唆されている。

本日は、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	84.63 (日足一目均衡表・基準線)
前日終値	83.85
サポート 1	83.00 (11/10 安値)

